

第17回日本教育メディア学会年次大会へのお誘い

大会準備委員長 鈴木 克明

会員各位

今年度の全国大会は、火の国熊本で開催させていただくことになりました。韓国教育情報メディア学会との共催で毎年、日韓を行き来して行っている国際会議 ICoME も熊本で同時期に開催する関係で、例年より少し早めの7月の開催となります。

どうぞふるってご参加・ご発表ください。

ここ熊本の地は、メディアの教育利用が盛んな土地柄でして、数多くの優れた教育実践者が学校現場をリードされています。

制作者と利用者、研究者と実践者が一同に会して、地上放送のデジタル化を目前にした情報社会における教育メディア研究の将来について、またケイタイなど急激に変貌するメディア環境における教育のあり方についてなど、本学会が果たすべき重要な役割についての熱い議論が繰り広げられることを期待しております。

会場となる熊本市国際交流会館は、市内中心部に位置し、繁華街からも、ホテルからも、そして築城 400 年を記念して復元された熊本城本丸御殿からも便利な場所にあります。人口 70 万人の割には賑わいをみせている街では、名物馬刺し、辛子蓮根、一文字ぐるぐるや天草からの新鮮な魚介類も堪能できます。

また、一足早くお越しいただける会員の皆様には是非、ICoME で韓国の教育メディア研究者とも交流いただくようご案内します。

英語の発表を通じて、日韓の研究者・実践者とその卵たちが楽しい学びあいをしてきました。その輪に加わっていただければ幸いです。

オプションツアーとして用意します阿蘇への旅にもご一緒に参加いただき、日本を代表する大自然阿蘇に抱かれた伝統的な温泉宿でも交流の輪を広めていただければ幸いです。

火の国熊本でお待ちしております。

【ICoME2010 (International Conference for Media in Education 2010) 開催のお知らせ】

—国際会議開催のお知らせ—

I. 開催期日・場所

期 日：平成22年7月14日（水）から16日（金）

場 所：熊本市国際交流会館（〒860-0806 熊本市花畑町4番8号）

※第17回日本教育メディア学会年次大会と同時開催

II. テーマ

“Empowering International Collaboration in Digital Broadcasting Area”

III. 大会日程（予定）

第1日 7月14日（水）	第2日 7月15日（木）	第3日 7月16日（金）
13:00-13:30 受 付	9:30-11:00 Round Table	9:00-12:00 学 校 見 学
13:30-15:30 Keynote Session	11:30-12:30 Concurrent2	12:30-17:30 オプションツアー
16:00-17:00 Concurrent1	12:30-13:30 昼 食	
	13:30-14:30 Concurrent3	
	15:00-16:00 Concurrent4	
	16:00-16:30 閉 会 式	

IV. 申込締切

(1) 一般発表プロポーザル締切：4月17日（土）

(2) ラウンドテーブル プロポーザル締切：5月1日（土）

(3) 原稿締切：5月31日（火）

(4) 参加申込締切：6月30日（水）

詳細は、ICoME2010 ホームページをご参照ください。

(<http://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/~icome2010/>)

【第17回日本教育メディア学会年次大会開催のお知らせ】

I. 開催期日・場所

期 日：平成22年7月17日（土）、18日（日）

場 所：熊本市国際交流会館（〒860-0806 熊本市花畑町4番8号）

※ICoME2010 (International Conference for Media in Education 2010) と同時開催

※例年の大会時期と比べて約3ヶ月早くなっております。

II. 大会日程（予定）

7月16日	第1日 7月17日	第2日 7月18日
17:30-19:30 理 事 会	9:30-10:00 受 付	9:30-12:00 自由研究2
	10:00-12:00 自由研究1	12:00-13:00 昼食／編集委員会
	12:00-13:00 昼 食	13:00-15:00 自由研究3
	13:00-14:00 総 会	
	14:00-15:30 シンポジウム	
	15:30-17:30 課 題 研 究	
	18:00-20:00 懇 親 会	

Ⅲ. 大会プログラムの概要

1. シンポジウム

ICT 環境整備と授業改革

補正予算や地上デジタルテレビ放送移行などで、学校への ICT 環境整備が進んでいる。電子黒板やデジタルテレビ、情報通信ネットワーク環境、モバイル機器の導入、整備は、授業方法や教師の対応にどのような影響を及ぼしているのか、その可能性や課題について、研究者、行政、実践者、コンテンツ配信側など、さまざまな立場の方に登壇いただき、議論を深めていきたい。

2. 課題研究 (公募)

【課題研究Ⅰ】教育放送 75 周年を検証する (コーディネータ：小平さち子)

学校向け教育番組の全国放送開始 (1935 (昭和 10) 年) から、今年で 75 年を迎える。ラジオ、テレビ、そして近年では通信への対応と、時代に応じて形を変えながら、教育放送は学校や家庭で利用されてきた。特に学校では、放送番組と合わせてデジタルコンテンツの活用が進んでいる。75 年という節目を迎えるにあたり、多様な視点から教育放送の歴史を振り返ることで、その役割や功績、課題を再確認して、今後の方向性を考えていく。

【課題研究Ⅱ】モバイル端末を活用した授業の可能性 (コーディネータ：中橋雄)

近年、モバイル端末を教育メディアとして授業に活用する実験的な取り組みが行われている。例えば、携帯電話、ネットブック、タブレット PC、携帯ゲーム機などを活用した授業実践である。「文字、音声、映像を扱うことができる」、「インターネットに接続できる」、「持ち運べる」など、様々なモバイル端末の特長を授業にどう活かすことができるのか。本課題研究では、モバイル端末を活用した授業実践、学習理論、モバイル端末用の教材開発などに関する研究を募集し、その可能性について議論する。

【課題研究Ⅲ】教育メディアと思考力 (コーディネータ：岡部昌樹)

これまでの教育メディアに関する研究は、伝達手段としての機能や特性に主眼を置いてきた。2000 年以降、ICT の急速な進歩により、メディアモード (態様) に占める映像 (画像) の比重が高まる中でも、やはり機能的側面からのアプローチが中核を占めてきた。一方、PISA 調査での読解力が示しているように、絵やイラスト、図といった映像モードを使った思考力の重要性が叫ばれている。ここでは、「メディアによる教育」に限定せず、「メディアとしての教育」も含めて教育メディアと思考力の関係や思考力を育成する方略・方術に関し、視聴覚教育、放送教育、メディア教育の知見を生かした幅広い論文を公募します。

Ⅳ. 研究発表 (課題研究・自由研究) について

1. 発表者の要件

- ・発表者は会員であることが必須です。発表申込時点までに本学会への入会手続きを済ませてください。なお、入会申込書は学会ホームページからダウンロードしてください。(<http://jaems.jp/>)
- ・会員 1 名が発表できる件数は、課題研究 1 件、自由研究 1 件、計 2 件までとします。

2. 課題研究プロポーザルの期限

平成 22 年 4 月 30 日 (金) 必着 (厳守)

同封の課題研究プロポーザル (学会ホームページからもダウンロードできます) に必要事項を記入の上、原則電子メール (または郵送) により、大会事務局あてに提出してください。課題研究ごとに最大 5 件を予定しておりますので、査読の結果によっては一般発表に回っていただくことをお願いする場合がございます。採否の通知については、5 月 10 日頃を予定しております。

3. 自由研究発表及び課題研究発表原稿送付期限

平成22年5月25日(火) 必着(厳守)

原稿受領をもって発表申し込みとさせていただきます。原稿枚数、書式をご確認の上、原則電子メール(または郵送)により大会事務局あてに提出してください。

4. 提出原稿の書式・枚数

(1) 原稿の書式

別紙、「学会研究会等発表論文集原稿執筆例」を参照の上、原稿を作成してください。**PDFファイル形式での原稿提出をお願いします。**PDFファイル形式で提出できない場合は、原稿が汚損しないようにして郵送にてお送りください。

(2) 原稿の枚数

課題研究はA4版用紙×2枚または4枚、自由研究はA4版用紙×2枚とします。

5. 発表時間

自由研究(口頭発表)の発表時間は1件あたり20分(発表15分、質疑4分、交代1分)を予定しています。発表件数等によって時間が短縮等されることがあります。座長は発表者の中から依頼させていただきます。

6. 発表用機材

各会場にノートパソコン(Windows)、プロジェクタ、マイクを用意しています。パソコンにはPowerPoint2003をインストールしております。PowerPointで作成したファイルをUSBメモリ、CDなどに入れてください。これ以外の機材、ソフト等を使用する場合及びハンドアウトなど配布資料は、各自でご準備ください。

V. 大会参加について

1. 参加申込票の提出

同封の参加申込票(学会ホームページからダウンロードもできます)に必要事項を記入の上、5月25日(火)までに郵送または電子メール添付により大会事務局あてに提出してください。

2. 大会参加費

大会参加費は、6月11日(金)までに払い込みください。払込手数料は各自負担でお願いします。大会参加費及び払い込み先は下記の通りです。参加費は、不参加の場合でも返金できません。

<参加費>

区分	当日(発表論文集代を含む)	事前振込(6月11日(金)まで)
一般会員	5,500円	5,000円*
学生会員	3,500円	3,000円*
一般参加者(非会員)	4,000円	4,000円

*「事前」とは、事前申込者に対する割引特典のことで、6月11日(金)までに払い込みを完了した会員のみが対象となります。

<払い込み先>

銀行名:熊本ファミリー銀行

支店名:子飼橋支店

口座番号:3009532

口座名:日本教育メディア学会年次大会 鈴木克明

通信欄:大会参加費、懇親会費の内訳、及び参加者の氏名・所属を記入してください。

3. 発表論文集

1冊 2,500円(会場受付にて手渡します)

会場に来られない場合は、別途送料500円にてお送りします。

VI. 大会事務局

課題研究プロポーザル、発表論文集原稿提出、参加申込は、下記の大会事務局にて受け付けます。

〒860-8555 熊本県熊本市黒髪 2-40-1
熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻内
第 17 回日本教育メディア学会年次大会事務局
電子メール：jaems2010@gsis.kumamoto-u.ac.jp

VII. その他の情報

1. 懇親会

別途、決定次第学会ホームページにて公開いたします。

2. 大会期間中の昼食・宿泊等について

(1) 昼食

会場周辺のレストラン、食堂などをご利用ください。

(2) 宿泊等

宿泊の手配は各自でお願いします。

3. 会場までのアクセス

熊本空港より

- ◆車で約 45 分
- ◆九州産交バスで約 45 分、交通センター下車、徒歩約 3 分

JR 熊本駅より

- ◆熊本市営電車で約 10 分、熊本城前下車、徒歩約 3 分
- ◆熊本市営バス、九州産交バス、熊本電鉄バスで約 10 分、交通センター下車、徒歩約 3 分
- ◆タクシーで約 10 分



4. 編集委員会

編集委員会は教育メディア学会 2 日目の昼食時に行います。部屋などのアナウンスは決定次第 Web サイトでお知らせいたします。

5. 理事会

理事会の行われる地獄温泉へは 7 月 16 日（金）の ICoME 終了後に熊本市国際交流会館出発便と熊本空港出発便のシャトルバスを運行いたします。詳細な集合場所・出発時間等は Web サイトでお知らせいたします。

会 場：地獄温泉清風荘

住 所：〒869-1404 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽 2327

電話番号：0967-67-0005

◆ 編集委員会からのお知らせ ◆

【機関誌『教育メディア研究』（第 17 号第 1 巻）「特集」への投稿原稿募集】

■ 投稿要領 ■

投稿に際しては、表記の方法など、詳細を「投稿規定」（学会誌の表紙裏、または本学会ホームページに掲載）をご覧ください。また、査読や入校を円滑かつ迅速に進めるために、英文要約と英語のキーワード表記については、ネイティブチェックを行うなどして十分に

ご配慮ください。

- ・原稿締切：平成22年5月末日
- ・字数制限：図表を含み5000字から6000字

■ 投稿あて先等 ■

投稿に際しては、次の書類等を下記「投稿先住所」まで、簡易書留でご送付ください。

- ・必要事項すべて記入済みの投稿票（本学会ホームページからダウンロードできます）
- ・投稿原稿を4部（原本1部とそのコピーを3部）
- ・原本が収められた記録媒体（CD-ROMなど）

<投稿先住所> 〒569-1095 大阪府高槻市霊仙寺町2-1-1

関西大学 総合情報学部 メディアミックス研究室内
日本教育メディア学会事務局宛

（封筒の表に「投稿原稿在中」と朱筆）

「特集」に関わりなく、「教育メディア研究」は、常時、投稿原稿を受け付けております。

学会ホームページから、「投稿票」など投稿に必要な書類をダウンロードし、論文種別、郵送部数、書留による郵送、必要事項を十分にご確認の上、ご投稿ください。なお、表記の方法、論文の種別に応じた字数制限などにも、特にご留意ください。

平成22年度 日本教育メディア学会第1回研究会のお知らせと発表の募集

I. 開催期日・日時

期日：平成22年5月29日（土）13:00～16:00（受付12:30～）

場所：武蔵大学8号館8604教室

（交通アクセス http://www.musashi.ac.jp/modules/annai_kouhou/index.php?content_id=9）

II. 研究会テーマ

情報社会におけるメディア・リテラシー教育

近年、パソコンの高性能化、モバイル化、あるいは、Blog、SNS、動画共有サイトの登場など、私たちのメディア環境には様々な変化が見られます。そこで、そのようなメディア環境の変化を捉えたメディア・リテラシー教育に関する理論的な研究や調査データに基づく実践研究、諸外国における動向の研究などを広く募集します。また、教育メディア研究一般に関する報告も広く募集します。

III. 内容

課題研究発表、自由研究発表、パネルディスカッション

(1) 課題研究発表

- ・情報社会におけるメディア・リテラシー教育についての研究発表を行う。
- ・発表者は会員・非会員を問わない。
- ・4～5件程度の発表を募集する。

(2) 自由研究発表

- ・自由研究発表を行う。
- ・発表者は会員・非会員を問わない。
- ・4～5件程度の発表を募集する。

(3) パネルディスカッション

- ・情報社会におけるメディア・リテラシー教育について討論する。

IV. 主催

日本教育メディア学会

参加費 資料代1,000円

発表申込：氏名、所属、発表タイトルを、担当の中橋までメールでお送りください。日

本教育メディア学会会員でなくとも発表できます。

V. 発表申込及び原稿送付締切日

1. 原稿締切日

平成22年5月5日（水）締切厳守

担当の中橋までメール（nakahashi.yu@nifty.ne.jp）でお送りください。

2. 原稿執筆要綱

原稿は論文集にまとめます。ワード形式 pdf 形式の原稿をメールで送付してください。B5 版 1 行 20 字×40 行×2 段組枚数は 4 枚以上の偶数枚。余白は、左右・上下=23mm 字体は明朝体 9 ポイント和文と英文の表題・名前・所属、要約、キーワード（5 個以内）

VI. その他

1. 懇親会

研究会終了後、簡単な懇親会を予定しております。参加費用約 5,000 円の予定です。

2. 参加申込

5 月 29 日（土）の研究会に参加する方は、以下の項目についてお知らせ下さい。☆ 研究会で発表する・しない（※どちらかを消してください） ☆ 懇親会に参加する・しない（※どちらかを消してください） ☆ ご所属 ☆ お名前 ☆ ご住所・連絡先

3. 会場担当者

武蔵大学 中橋 雄

平成 21 年度第 2 回研究会報告

村井万寿夫

平成 21 年 1 月 30 日（土）に金沢星稜大学において第 2 回研究会が開催されました。当日は発表者を含め 30 名が参加し、デジタルテレビやデジタル教材の活用はもとより、ICT 活用について世界的な視野から研究討議しました。

自由研究、課題研究、合わせて 8 件の研究報告がありました。町内全小学校に 50 インチの地デジテレビが導入され、教室に大きなものが入ってきたので戸惑いを見せる教師が少なくないことが報告される一方で、別の地域の小学校の教諭は体育の時間に美しい映像を見せ、子どもの心を感化させながら表現運動に取り組み、これまでにない学習効果があったことが報告されました。また、電子黒板とプロジェクタの 2 台の提示装置を比較した研究報告がありました。今後の方向に示唆を与える報告でもありました。理科のデジタル教材を活用した授業実践では、観察・実験とデジタル教材を組み合わせることで実感を伴った学びに迫ることができたと報告されました。唯一、石川県外の学校に勤務する教師からは探究型の学習過程に電子黒板を活用した授業実践が報告されました。電子黒板だけでなく、ノートの活用の仕方についても質問がありました。また、唯一、中学校の授業実践が報告されました。古典教材をプレゼンテーションソフトで作成して大型スクリーンで提示すると、初期の内は生徒の意識が普段以上に高まったことが報告されました。



鈴木克明会員からは、ICT 準備度の国際比較ランキングが紹介され、日本の位置が徐々に下がってきているのがわかるとともに、現在の民主党政権下ではさらに世界に後れをとるといった声が多く聞かれました。また、水越敏行会員からは英国と韓国の情報教育について紹介を受け、さらに日本との差がついていくのではないかとといった意見が出されました。

総括パネルディスカッションでは、久保田賢一会員、中川一史会員に8件の報告内容について総括コメントをいただきました。異口同音、デジタルテレビが教室に入ってきたら、どういうふうにするか、学校全体、地域全体で考えていかなければならないといった示唆を受け、参加者は気持ちも新たに各地域へと戻って行きました。

【会員情報】

新入会員

<正会員>

神崎 友子

退会者

野津 良夫

大平 滋

吉田 昌生

呉 鵬澤

朴 延子

会員総数 382名・団体
会員 310名 学生会員 53名
団体会員 6団体 購読会員 12団体
(平成22年2月18日現在)

◆ 学会費納入のお願い ◆

本学会会費は、前納制です。2011年度(2011年4月1日から2012年3月31日)の年会費7,000円(学生会員5,000円)を、下記口座にお振り込みいただくか、郵便局備え付けの「郵便振替用紙」を用いて、納入いただくようお願いいたします。

なお、前年度までの会費を未納の方は、振込者名の後ろに年度を付加してお振り込みいただくか、郵便振替用紙に年度を明記の上、合わせて納入をお願いします。

<送金先>

(1)りそな銀行 店名：千里中央支店

預金種目：普通

口座番号：0124720

口座名：日本教育メディア学会(ニホンキョウ
ウイクメディアガックイ)

(2)ゆうちょ銀行

口座番号：14160-8658501

口座名：日本教育メディア学会(ニホンキョウ
イクメディアガックイ)

(銀行からの振り込みの場合)

銀行名：ゆうちょ銀行

店名：四一八店(ヨンイチハチ店)

店番：418

預金種目：普通

口座番号：0865850

◇日本教育メディア学会 事務局◇

〒569-1095

電話.FAX

学会ホームページ URL

E-mail

ゆうちょ銀行

口座名

大阪府高槻市霊仙寺町2-1-1 関西大学大学院 メディアミックス研究室内

072-690-2419

<http://jaems.jp/>

office@jaems.jp

14160-8658501

日本教育メディア学会

(平成22年3月2日現在)